

## 篠崎正人さん講演「沖縄・南西諸島を

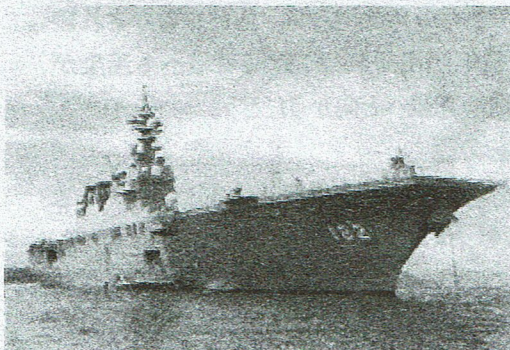
### にらむ佐世保の基地群」(要旨)

八木 巖

2018年12月1日「連続講座第 日米安保最前線 どこまで進む軍備拡大・同盟強化」シリーズの第4回目としてリムピース編集委員の篠崎正人さんの講演会をおこないました。

篠崎さんは、冷戦以後の米、日の安全保障関係の変化を説明されたあと、佐世保基地の現状を紹介されました。兵器としてはF35Bやヘリ、LCAC(ホバークラフト型の揚陸艦)を載せることができる強襲揚陸艦ワズプがあります。(ワズプは2019年には佐世保を離れるという報道が12月13日にありました。)また事前集積艦ソダーマンがある。海兵隊は韓国とサイパンと佐世保に事前集積艦をもっている。この艦は兵器や補給品を満載しており、海兵隊は作戦行動の際には兵力だけを送っても意味がないので、まずこの事前集積艦を送り、その後高速輸送艦で兵を送るとのことです。その意味で沖縄に基地がなければ「有事」に対応できないというのはウソである。そのほかには燃料補給艦などがあり、原子力潜水艦も寄港する。佐世保は沖縄のホワイトビーチや横須賀とは性格が異なり、後方支援型の船が多い、「ウラ作業」が中心と説明されました。

海上自衛隊は艦船が大型化しており、揚陸艦・輸送艦の任務が拡大しており、米艦防護などの外洋展開任務が増え、艦船も海洋化しており(艦船には海洋型と沿岸型がある)、空母型護衛艦「いせ」が佐世保に配置されている。



空母型護衛艦「いせ」

陸上自衛隊は、「専守防衛」から「奪還」、陸上の戦闘から上陸作戦、が言われるようになり、米陸軍、米海兵隊との共同訓練も増えている。「日本版海兵隊」・水陸機動団は相浦駐屯地におかれるが(1000人規模)、九州全域にわたって改編されている。



2018年10月14日種子島

種子島で日米合同軍事訓練をおこない、水陸機動団が上陸訓練に参加。水陸機動団の前身は西部方面普通科連隊だが、対馬にあった山岳ゲリラ戦部隊も統合されている。篠崎さんは編制式での青木師団長の「現時点では能力が完全ではない」発言を引用して、米海兵隊のノウハウはほとんどわたされていないという指摘をされた。渡さない理由については、米議会報告書が、安倍内閣はウルトラナショナリストと言っていることにあるのではないかと、という分析をされた。

新防衛計画大綱では「調達装備にあわせた運用計画」をたてるとしている。これは買ってから、どう使うか考えるという意味である。「なにが必要か」ではない。どうも安倍官邸と現場では乖離があるのではないかとのことでした。

水陸機動団は能力が「不完全」であり、輸送力もない。米軍の一部でしか機能しない。現状は米軍との一体化ではなく、米軍の一部化ではないか、ということでした。

篠崎さんは、平和運動を軍事への知識から考えるということをしていて、とても参考になりました。

この講演は「沖縄・南西諸島をにらむ佐世保基地群」というタイトルでYoutubeにあげてあります。以前あげていたものにキャプションなどを加え、新しく編集しました。

<https://youtu.be/C9kDUtlnurM>